

授業科目 発達障害作業療法評価学実習

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	作業
永井 洋一		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
発達障害に対する作業療法評価を遂行するために必要な基礎知識と、検査・観察に関する基礎的な評価の技術を身につける					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】					
1. 対象児及びその家族と接するときに必要な注意点を列挙できる					
2. 問題点に注意しながら家族との面接を模擬的に実施できる。					
3. 学生を対象に発達全般の評価を模擬的に実施できる					
4. 姿勢・運動の評価を人形などを対象に模擬的に実施できる					
5. 微細運動の発達評価を学生などを対象に模擬的に実施できる（観察を含む）					
6. 心理社会的能力の発達評価を学生などを対象に模擬的に実施できる					
7. ADL・適応行動（遊びを含む）の評価を模擬的に実施できる					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション、子ども・保護者との接し方			1	講義
2	家族との面接方法（模擬演習）			2	演習・実技
3	姿勢・運動発達の評価①：ミラニ＝コンパレッティなど			4	〃
4	姿勢・運動発達の評価②：人形による実習			4	〃
5	姿勢・運動発達の評価実技テスト			4	実技テスト
6	微細運動発達評価（書字動作／食事動作の分析）			5	分析レポート
7	発達全般の検査（デンバー、遠城寺、KIDS等）①			3	講義・演習
8	発達全般の検査（デンバー、遠城寺、KIDS等）②			3	〃，レポート
9	心理・社会的能力の評価①（知覚・認知）Frostig, D.A.M.等			6	〃
10	心理・社会的能力の評価②（知覚・認知）Frostig, D.A.M.等			6	〃，レポート
11	ADL、適応行動（遊びを含む）の評価①			7	〃
12	ADL、適応行動（遊びを含む）の評価②			7	〃，レポート
13	Paper Patientによる評価内容の検討（グループ課題）			全	発表
14	まとめ			全	講義・討議
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		作業療法学全書第3巻『作業療法評価学』、日本作業療法士協会（編）、協同医学出版社、1999、¥3,200 作業療法学全書第6巻『発達障害』、日本作業療法士協会（編）、協同医学出版社、1999、¥3,400			
参考書		『発達障害と作業療法【基礎編】』、岩崎清隆、三輪書店、2001、¥3,300			
その他の資料		必要に応じて配布する			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
出席：10%、 積極的参加：20%、 実技テスト：30%、 課題：40%			人間発達学および小児科学の単位を修得していなければならない 評価学の講義内容を実際に体験する科目であることを意識し、欠席は慎むこと		